

[作品 (プロジェクト) 名]

[作家名]

<p>SWITCH [スイッチ]</p>	<p>ARS ELECTRONICA FUTURE LAB</p>		<p>アイデアが未来の“スイッチ”になる ちょっとした気づきを、 テクノロジーを使って表現する体験キット</p> <p>一見、普通のダンボールフレーム。でも、このフレームには音や人の気配に反応するセンサーがそれぞれ内蔵されていて、センサーが感知すると中のブレイクドーナに描かれた絵が“スイッチ” (即り替わる) します。誰が気になったか、自分の周りのちょっとしたことを、あなたのアイデアで“スイッチ”する。どんな機能のセンサーを選んで、何を描くかは自由です。「つぎの絵で何が起るか?」を考えることが“未来”を考えることにもつながる、ユニークな体験キットです。</p>
<p>Shadowgram [シャドウグラム]</p>	<p>ARS ELECTRONICA FUTURE LAB</p>		<p>カラダをつかって社会を豊かに 社会問題への興味や想いを、 自分の“影”のカタチで表現</p> <p>世の中が抱える様々な問題が描かれた大きなイラストボード。そこに、自分の“影”をかたどったペーパークワッドを貼っていきます。「貼れた森林に緑を増やしたい!」「CO2を出さず車を走らせたい。出来るだけ早く!」など、興味を感じた問題を改善する自分なりの活動を、自分の形でカタチをつけて表現していく。「どんな活動が解決策になるか?」「影でどんなカタチをつくらうか?」「どんな未来をつくりたいか?」を楽しみながら考えることができる参加型作品。</p>
<p>Oribotics [オリボティクス]</p>	<p>Matthew Gardiner</p>		<p>未来の照明はロボットになる!? 折り紙にインスパイアされたフラワー型ロボット</p> <p>人が近づくと光を点滅させ、美しい色彩の光を放つフラワー型照明ロボット「オリボティクス」。日本の折り紙にインスパイアされたつくられたもので、高度に計算された“折り”のデザインが特徴です。中央に人感センサーとLED照明が設置されており、ひとつひとつが開いたり、閉じたりする動作の美しさと、明かりとしての色彩の美しさを両立させた照明です。人の動きに反応し、生命も感じさせる「オリボティクス」。ロボットが照明となる未来の生活を垣見させてくれます。</p>
<p>The EyeWriter [アイライタ]</p>	<p>Zachary Lieberman/Tempt1/Evan Roth/ Chris Sugrue/Theo Watson and James Powderly</p>		<p>造力は、すべての人が発揮できる 目の動きをトラッキングしてグラフィティを描くド ローイングツール</p> <p>本年度の「プリ・アルス・エレクトロニカ」を受賞した「アイライタ」は、目の虹彩の動きを読み取り、その軌跡を追うことで、ディスプレイ画面にグラフィティを描き出すドローイングツール。“たとえ身体が不自由でも、人はクリエイティブであり続ける”をテーマに、ザカリー・リーバーマンが中心としたプロジェクトから生まれました。今回のエキシビションでは、不慮の事故で全身不随となったグラフィティアーティスト、トニー・クアン氏のドローイングを展示しました。</p>
<p>WindowFarms [ウインドウ・ファーム]</p>	<p>Britta Riley</p>		<p>自給自足をもっと身近に 窓を利用した省スペース家庭菜園</p> <p>庭やテラスがなくても、窓さえあればできるもの。それが「ウインドウ・ファーム」。未来の家庭菜園のカギです。ペットボトルのプラフタに、気温や時間で自動給水のシステムを設計して、窓ついでに完成。シンプルながらテクノロジーから生まれたツールキットで、実際に販売もしています。私たちの未来の生活は、このような“ちょっとだけ自給自足”が当たり前になっているかもしれません。</p>
<p>OPEN SAILING [オープン・セーリング]</p>	<p>様々な専門家によるプロジェクト</p>		<p>海で生きる。未来の暮らし方 国際海洋ステーションの開発</p> <p>人口の過剰増加や気候変動など、いま地球が直面している問題を克服し、魅力的な未来をつくりだすために、多分野の専門家参加する国際的なプロジェクト「オープン・セーリング」。地球で生きるアイデアとして、海に浮かぶが生活・実験空間“国際海洋ステーション”の開発を提案しています。本展示では、食料供給や廃棄物システム、常に安全な場所に移動できるナビゲーションシステムなど、衣食住のライフラインがどうようにつくられているかを紹介しました。また、この大規模なプロジェクトに関する技術やアイデアは、すべてインターネット上で公開されており、誰でもプロジェクトに参加できるのもユニークなポイント。より良い未来を実現する方法として、資金を持たない人や小さなアイデアが採用される可能性を示すことで、新しいワークスタイルの提案もしているのです。</p>
<p>Telenoid [テレノイド]</p>	<p>石黒浩</p>		<p>“さわれる”遠隔コミュニケーション 感情や表情を再現する通信ロボット</p> <p>赤ちゃん型通信ロボット「テレノイド」。抱きかかると、表情が豊かに動き、赤ちゃんと感情を表現します。これは実は、離れた場所にいる相手の表情を読み取って再現しているもの。身ぶりも話者がコントロールできるのです。人間の“感情表現”と“さわり心地”を備えた通信ロボット「テレノイド」。通常の電話やテレビ電話とは異なるコミュニケーションとは異なる、遠隔コミュニケーションの未来を体験できます。</p>
<p>hanahanahana [ハナハナハナ]</p>	<p>plaplx</p>		<p>生活に新しい感性を開花させる 香りを映像に変換する未来のインテリア</p> <p>私たち人間は花の香りを嗅いで楽しめますが、この「hanahanahana」は、“香り”を感じて花を咲かせます。好きなフレグランスを選んで葉っぱ型の花瓶に吹き付けセンサーに近づけると、香りの種類や強さに応じてカラフルな映像の花が現れます。その美しさと楽しさは、未来のインテリアにぴったり。嗅覚と視覚をミックスした、新しい感性を開花させてくれる「hanahanahana」。五感を刺激することで日々の生活が豊かになっていくことを感じさせる、未来のプロジェクトです。</p>
<p>JAMMING GEAR [ジャミング・ギア]</p>	<p>菅野創</p>		<p>創造力を喚起する作曲玩具 歯車を組み合わせて作曲ができる知的玩具</p> <p>知育教育のための様々なおもちゃが開発されている中、テクノロジーを活用したおもちゃとして注目を集めるのが、この「ジャミング・ギア」。フレーズが入ったモジュールに、歯車を組み付け、ひとつひとつ繋げていくことで楽曲を演奏する。未来感覚の楽器です。「ジャミング・ギア」は、デジタル的なシンパシーを保持しながら、実は、音と時間が構造化された“音楽のしくみ”を学べる科学的なおもちゃなんです。遊び感覚で作曲をしているうちに、子どもたちの秘めた才能が発見されるかもしれません。</p>
<p>FREQTRIC DRAMS [フレクトリック・ドラム]</p>	<p>馬場哲晃</p>		<p>身体が電子楽器になる未来 ボディタッチで反応する電気ドラム</p> <p>ハンドルのついた円盤状のドラムを持ちながら、さあ集まって！お互いのカラダをタッチすると、ドラム音が鳴り出します。自由なリズムで演奏してみよう！「フレクトリック・ドラム」は、他者との“接触”をコミュニケーション・インターフェースとしてとらえた、アプリケーション開発プロジェクトから生まれたもの。人間が電線となり、触れることで電気が流れ、ドラムが反応するという仕組みです。もちろん、ごく軽い電流なので、ご安心を。いままでない“ボディタッチ”でコミュニケーションする楽しさを体験できます。</p>
<p>i 3 DG [アイ・スリー・ディー・ジ]</p>	<p>間瀬実郎/長江努</p>		<p>3D映像をモバイルとして裸眼で楽しむ iPhoneを3Dモニターに変換するガジェットツール</p> <p>3Dメガネがなくても、いつでもどこでもオリジナルの3D画像を楽しめる時代の到来です。この「アイ・スリー・ディー・ジ」は、iPhoneのモニターを3Dモニターに変換するガジェットツール。目のハーフレンズを取り付けることで、3Dのイメージに映り込む画像が“奥行き”を生み出し、迫る3Dはひと味違った映像体験が出来ます。3Dとして見るには専用の映像が必要ですが、現在ソフト制作ツールも開発中。来る3D時代、“見る人”だけでなく“つくる人”にまで、ムーブメントを広げるユニークなツールとして注目を集めそうです。</p>